

# 市長へ政策提言

平成 21 年 12 月 3 日、池田会長・財部会長職務代理・竹下農政部長・五位塚部会長代理が、池田市長に対し、下記の事項について政策提言をいたしました。

## 1 甘藷の新品種の導入確保と農業生産所得拡大及び食品加工施設等の誘致について

曾於市における平成 20 年産農畜産物作況・生産実績によると水稲で作況指数は 102 のやや良であったものの紋枯病やいもち病の発生が見られ、1 等米比率も前年度を大きく下回っています。さつまいもにおいては、農薬汚染米の影響や増収による出荷停止・出荷制限が行われる等厳しい状況下でありました。平成 21 年度に入り焼酎メーカーも良質原料芋を生産農家に強く要請しており、品質の悪い芋は返品措置がとられている状況であります。

今後、行政と JA が連携し良質な甘藷を栽培する技術の普及と焼酎に適した優良品種、新品種の導入に取り組んで頂きたい。野菜については、生産量・生産額とも前年度を大きく上回ったものの燃料価格、肥料価格の高騰により農業経営は依然として厳しい状況下におかれています。今後農業収益を上げるための手だてを構築し農業生産所得拡大のための施策を示して頂きたい。又、末吉工業団地に進出している横山食品、大隅に進出しているヤゴローフーズ等市内の食品会社への商品開発のための支援と併せて新たな農産加工会社の誘致を促進して頂きたい。



## 2 農業用ポリエステル、廃ビニールの一時保管場所及び堆肥ストックヤードの設置について

農業生産物の副産物である農業用ポリエステル、廃ビニールの回収については年間を通して決められた期日にて収集が行われており評価するところですが、これらの収集をいつでも収集できる一時保管場所の設置はできないのか検討頂きたい。

又、曾於市内における多くの農家は良質堆肥の供給を望んでおり、今後高品質の堆肥づくりを進め安定的に供給される体制の確立のため堆肥ストックヤードの設置を検討頂きたい。

## 3 畜産農家の支援について

肉用牛農家・養豚農家は飼料及び燃料の高騰が経営を圧迫している状況です。更に、せり市での子牛価格の低迷、不況によるものと思われる肉の販売不振で牛肉、豚肉ともに在庫を抱えていると聞いています。

このような中で、高齢牛、低能力牛の産子はせり市で安価な取引となっています。現在、曾於中央家畜市場における更新牛に対して導入時に 5 万円、自家保留時に 3 万円の補助金を支給するシステムがありますが、これは単年度事業でありますので、施策の延長を検討頂きたい。

## 4 遊休農地対策としての飼料稲の導入について

平成 21 年度深川地区区内で飼料米・飼料稲の栽培試験が実施されていますが、品種毎の収量・適性度・問題点を速やかに公表して頂きたい。

又、耕作放棄地・遊休農地の解消に向けて区画の整地・整理事業を導入するなど具体的なモデル地区を設置できないか検討頂きたい。

## 5 食育の推進と地産地消について

高齢化社会の到来とともに健康志向が高まり、食の安全性や健康によい食品成分への関心も高くなっています。そこで、「地産・地消」に取り組むと同時に、我が国や世界の食料事情についても広く市民に学習機会を提供するなど、積極的な食育の推進を図られるようお願いしたい。又、安心安全な曾於市産米・野菜・肉類の消費拡大のため学校給食から病院・公共性のある施設への拡大を図り、曾於市内で生産された食材の利用促進のための啓発活動に取り組んで頂きたい。

## 6 担い手の育成確保と異業種交流について

将来にわたって地域農業を担う意欲ある担い手の育成・確保に向けて行政及び農業団体が一体となって取り組む必要があります。

曾於市における認定農業者数は平成 21 年 9 月 30 日現在で 627 名となっています。アクションプログラムによる数値目標では平成 21 年度で 630 名であり 99.5% の達成率となっており高く評価できます。今後とも農業担い手である認定農業者育成確保については、更なる取り組みを期待します。

一方、他産業との交流の少ない意欲ある農業青年にとっては、異性との出会いの機会が少なく、独立した家庭の形成ができない農業青年が多く見られます。このような意欲ある農業青年のため、農業担い手と他産業との異業種交流を市長部局で計画され予算計上して頂きたい。